

令和6年度 学校評価報告書【国立市国立第六小学校】

学校教育目標	よく考える子 なかよく助け合う子 元気でたくましい子	重点目標	なかよく助け合う子
--------	----------------------------------	------	-----------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
よく考える子	児童の基礎的・基本的学力の定着	教員間の共通認識の構築	学ぶ楽しさを感じる児童の育成を目指し、研究授業を年間6回（全学年）実施し、講師の指導を授業に生かす。	教員自己評価の回答 「各教科のねらいを達成できた。」 達成できた：A 概ね達成できた：B 達成できなかった：C		B	教員は研究授業などを通して、授業改善に意欲的に取り組んできた。ねらいの達成のための学習方法や形態を試行錯誤することもあり、自信をもって達成したと回答するには至らなかった。	児童が学ぶ楽しさを感じるための共通認識を再確認し、指導方法の充実を目指す。	先生方の努力は伝わってきている。もっと評価をあげてもいいのではないかな。
		基礎学力の定着	朝学習の時間を中心に、東京ベーシック・ドリルを計画的に実施することで、既習事項の見直しをする。	東京ベーシック・ドリル（算数診断シート）の結果 習得の割合[平均正答率] 70％以上：A 60％以上：B 60％未満：C	C	B	7月の平均が57.5であったが、12月の平均は64.5に上昇した。継続して習熟度別学習を行うことで、前学年の内容の復習も定期的に行うことができた。	引き続き、朝学習や習熟度別学習を継続して行うことで、既習事項のさらなる定着を図る。	他教科の結果はないのか。診断シートがあるのは算数だけである。数値の上昇は先生方の努力もあると思われる。
		読書活動に対する意欲の向上	読書活動の充実を図る。（朝読書・読み聞かせ・読書旬間・おすすめの本の紹介・お話会）	児童への読書アンケート 「読書が好き」と回答した児童の割合 90％以上：A 70％以上：B 70％未満：C		B	75％の児童が「好き」と答えている。一方で「あまり好きではない」と答える児童も20％近くいるので、さらなる読書活動の充実が必要である。	六小サポーターによる朝の読み聞かせも定着してきており、引き続き様々な読書活動で啓発していく。	スマホなどの普及で、本を読んで想像する力が弱くなっているのではないかな。
なかよく助け合う子	育特の別充支実援教	教職員間の情報共有と指導の改善	特別支援コーディネーターを中心に校内委員会や生活指導全体会の充実を図る。	学校評価（教員自己評価）の回答 「情報の共有と指導の充実を図ることができた」		A	週1回の校内委員会での情報共有はもちろん、授業後に児童の様子を共有することが多くあり、指導の充実につながった。	引き続き児童の様子を共有することで、効果的な指導ができるようにする。	幼保小の連携はどうなっているのか。「うちの子紹介シート」「要録」などで引き継ぎを行っている。
	豊かな心の育成	いじめの未然防止・早期解決	人権尊重の理念に基づき、道徳授業の充実に努め、集団の中での温かな人間関係の構築を図る。	ふれあい月間の児童への調査結果（いじめが疑われる児童への対応）	B	C	友達同士のトラブルが日々起こる中で、話し合いの場を設けてきたが、いじめの問題が起きてしまった。	温かい言葉がけで児童に安心感をもたせるとともに、地域の支えを借りながら保護者の理解を得られるように連携を図る。	いじめが起きた後の対応は、今後に生かそうとする動きとしてよいものだったと思われる。
		協調性や社会性の育成	学校生活満足度調査の結果の活用と、構成的エンカウターの実施により、互いの良さや成長を認め合う活動の充実を図る。	学校生活満足度調査の回答・変容		B	学校生活満足度調査の結果から、学級全体の傾向を理解し、構成的エンカウターを実施してきた。	構成的エンカウターの継続的な実施により、友達と協力することの良さを実感させる。	社会環境・家庭環境の変化もあり、学校だけで対応していくことは難しいこともある。
元気でたくましい子	増進の心身の保健	健康な心と体の育成	体育的行事や体育の授業を通じて、心身の健康の保持増進を図る。	体力調査結果（東京都と本校の体力合計点の比較） 都の合計点を上回った：A 都の合計点と同等：B 都の合計点を下回った：C	C	C	都の平均を大きく下回る種目がいくつかあった。体を動かすことの二極化が進んでおり、体を動かす楽しさを実感することが急務である。	体育の授業や休み時間の外遊びを通して、体を動かすことの楽しさを実感できるようにしていく。	縄跳びなどで楽しく体を動かすようにすると、基礎体力もついてくるのではないかな。
	育進のキャリア教育	自己肯定感の向上	キャリアパスポートを活用し、自分の成長を実感し、自分の得意を見付け、友達の得意も認められる関係の構築を図る。	児童へのアンケート 「友達の得意・好きをわかる」と回答した児童の割合 90％以上：A 70％以上：B 70％未満：C		B	「自分には好きなこと・得意なことがある」と答えた児童は90％、「友達の得意なこと・好きなことを知っている」と答えた児童は80％を超えており、友達の良さを認める素地は十分にある。	今後は、友達の良さをきちんと伝えられるように働きかける。自分の良さ、友達の良さを認め合うことの素晴らしさを実感できるようにしていく。	学校からの親への発信も、いいところを伝え、よい循環が生まれるようにするとよいのではないかな。

達成状況の指標 A:100%～90% B:89.9%～70% C:69.9%～0%
--